

©みなもと太郎/リイド社



開館15周年特別展「大黒屋光太夫と『風雲児たち』」

令和2年9月30日(水)～11月23日(月)

みなもと太郎『風雲児たち』は、関ヶ原の戦いから幕末に至るまでの歴史を描いた人気漫画です。令和元年6月には歌舞伎座「六月大歌舞伎」夜の部にて、三谷幸喜作・演出による『月光露針路日本 風雲児たち』が新作歌舞伎として上演され、鈴鹿の偉人である大黒屋光太夫を多くの方に知っていただく機会となりました。

今回の特別展では、その原作である『風雲児たち』に焦点を当て、漫画の名場面と当館の所蔵資料とで大黒屋光太夫の足跡をたどり、その業績をわかりやすく紹介します。



©みなもと太郎/リイド社

「かねて療病院より庄蔵を磯吉が旅宿へよびよせおきしが、わざと発足の事をばかくしおき、立ぎはに俄にいとまごひをなしければ、庄蔵は只呆て物をもいはず茫然としたる躰也しが、光太夫立より手をとりにて、今別れて再び会うべきともおぼへず、死して別る、もおなじ道なれば、よくよく互の面をも見おくべしと、ねんごろに離状をのべ、いつまでおしむともつきぜぬなごりなれば心よわくては叶はじと、彼邦のならひなれば、つとよりて口を吸ひ、思ひきりてかけ出せば、庄蔵は叶はぬ足にて立あがりこけまろび、大声をあげ、小児の如くなきさげび悶へこがれける。道のほど暫のうちはその声耳にのこりて腸を断計におぼえける。」

これは『北榎聞略』に記された光太夫と庄蔵（凍傷のため片足を切断し、キリスト教に入信。ロシアに残留せざるを得なかった）との別れの場面です。『北榎聞略』の中でも、名場面に数えられる涙を誘うシーンですが、『風雲児たち』では、庄蔵の泣き叫び悶える様を左のような迫力のある描写で表現しています。

大黒屋光太夫記念館では、特別展・企画展を通して、さまざまな視点から光太夫について紹介しています。

大黒屋光太夫記念館

〒510-0224 三重県鈴鹿市若松中一丁目1-8
Tel&Fax 059-385-3797

発行/鈴鹿市文化スポーツ部
文化財課
発行日/2020年9月30日

みなもと太郎先生から記念館へメッセージをいただきました！

大黒屋光太夫記念館15周年、誠にありがとうございます。

その節目の時の特別展に拙作「風雲児たち」を取り上げて頂きましたこと、鈴鹿市長及び記念館関係者の皆様に深く御礼申し上げます。

拙作「風雲児たち」は1979年に始まり現在まで40年にわたり書かせて頂いている作品です。

当時、掲載誌に手塚治虫先生「ブッダ」、横山光輝先生「三国志」が連載されており、インドと中国の大河が有って日本が無いのがおかしい、と思い立ち日本史の人気がある時代「戦国」「幕末」を書こうと試みました。連載当初、関ヶ原を書いてその後すぐに幕末が来るものと思っていたのがそもそもの間違いで、歴史の流れは想像を遙かに超えた壮大で複雑なものでした。

徳川幕府の成り立ち、幕末志士の思想に大きく関わった蘭学、北海道開拓、などなど書かなくてはならない事柄が非常に多く、私のライフワークになってしまいました。

その数多くあるエピソードの中でも「大黒屋光太夫」は1・2を争う至極の物語です。

あの広大なロシア大陸を、鉄の意志で踏破した光太夫たちの物語は感動と涙しか有りません。(そして笑いも) 昨年(2019年6月)、この光太夫を題材にした三谷幸喜氏脚本による歌舞伎「月光露針路日本 風雲児たち」が好評を博し、そのシネマ歌舞伎が本年10月より全国の映画館で封切られます。私にとっては望外の喜びであり、皆様には感謝の言葉もございません。

今回の特別展をご覧頂き、その後の歴史の流れに思いを馳せて頂ければ幸いです。

2020年9月30日

みなもと太郎

ソフィアの歌

光太夫がペテルブルグに滞在中に滞在した家の娘・ソフィアが、光太夫の境遇に同情して歌った曲のことが下記のように「北椋聞略」に紹介されています。



Ах! скудно мне на чужой стране.....♪
アア スクシノ メニ ヤ テンゾイ ストロネ

Все не мило все опостыло.....♫
フセ ネ ミーロ フセ ボステーロ

ああ……たいくつだ 私は他國の地で
何もかも 懐かしいものではなく 何もかも つらいものばかり……



©みなもと太郎/リイド社

光太夫が身のうへをブシが妹ソヒヤ・イワノウナ歌につくりて

はやらかし、都下一般にうたひけるとぞ。その唱歌は

ああ たいくつや 我 他(ひと)の 國
アハ スクシノ メニヤ ナツゾイ ストロネ

皆々たのお みなみなすてまいぞ なさけないぞやおまえがた なさけないぞやおまえがた
フセネミロ フセツポステロ ドルガメロネト ドルガメロワネト

見むきもせいで あちらむく うらめしや つらめしや
ナギレテラテ ヤナシウエタ チトツピワロ ウテシャーロ

いまは なくばかり
ヲトム プラツチノ

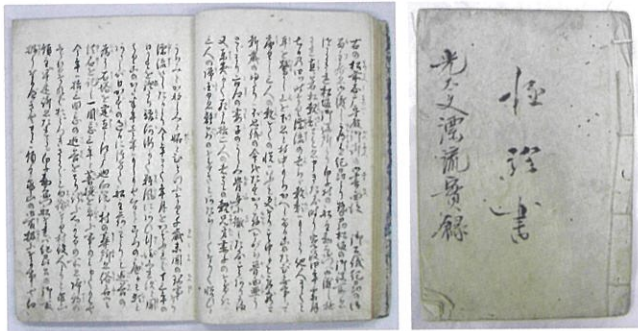
是は光太夫が訳せしなり

光太夫研究の第一人者であった亀井高孝(1886-1977)はこの曲に「ソフィアの歌」という名をつけ、日本に紹介しました。

右のQRコードでソフィアの歌のメロディーをお聴きいただけるサイトにリンクしています。



大黒屋光太夫の関係資料が文化財指定されました



漂流船実録

極珍書



小市の遺品

令和2年9月29日に下記の大黒屋光太夫関係資料3件が鈴鹿市指定有形文化財になりました。

- ・極珍書 1点 全19丁 個人蔵
江戸時代後期(寛政10年・1798)ごろ成立
芙蓉館木翁と名乗る人物による。磯吉帰郷の際の聞き書きである。
- ・漂流船実録 1点 全35丁 大黒屋光太夫記念館
江戸時代後期成立
木翁によって編まれた光太夫漂流の顛末をまとめた書物。地元で編まれた漂流記で、転写本少なく貴重。
- ・小市の遺品 16点 大黒屋光太夫記念館
江戸時代後期
小市の遺品は、小市がロシアから持ち帰った品物で、妻に幕府から藩を通じて下げ渡された経緯が確認できる。各地に貸し出され展示された。

上記2点の文書資料は、公的記録では知りようもない神昌丸漂流事件がこの地域社会に与えた一面を知る事ができる資料であり、また、小市の遺品は各地に関連資料が多く残されています。

光太夫もマスクです



新型コロナウイルスの感染拡大のニュースが日々報じられる中、令和2年8月6日から記念館と市役所西口の大黒屋光太夫像もマスクをして、感染拡大防止を呼び掛けています。

光太夫像がしているマスクは、記念館職員の手作りです。愛情たっぷりのマスクで、皆様をお待ちしています。

記念館では、ご来館の皆様にも、マスクの着用と手指消毒のご協力をお願いしています。こまやかな感染対策の上で、皆様をお迎えしたいと思っておりますので、ご協力をお願いいたします。

なお、光太夫像のマスクは、感染状況が一段落するまで続ける予定です。

是非、SNSなどにも今だけのレアな光太夫さんをアップしてくださいね。

#大黒屋光太夫記念館



市役所西玄関

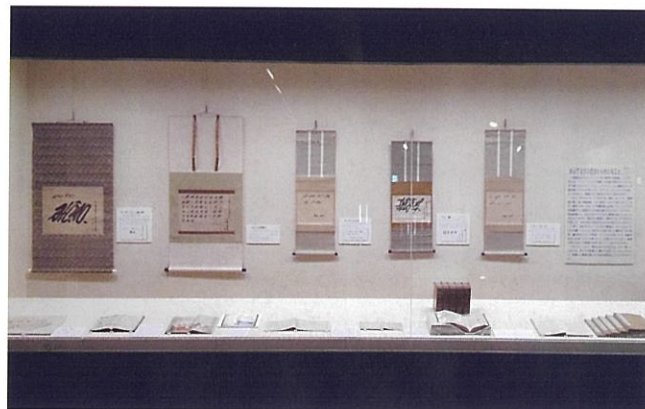


光太夫記念館

春の企画展 無事終了しました

令和2年9月27日(日)まで、春の企画展「大黒屋光太夫の里がえり」を開催しました。本来は春季に開催する予定の企画展でしたが、新型コロナウイルスの感染予防のため記念館が休館することになり、会期をずらしての開催となりました。

また、11月25日(水)からは、冬の企画展「光太夫がかいたロシア文字」を開催予定です。感染予防対策をして皆様をお待ちしております。



昨年展示の様子

記念館だよりと郷土資料室だよりをダウンロードできます

§ 大黒屋光太夫記念館
だよりのバックナンバー
はこちらから



§ 郷土資料室だよりを発
行しました。ダウンロード
はこちらから



ダイコー

大黒屋光太夫 記念館だより 28号



〒510-0224

鈴鹿市若松中1丁目1-8

大黒屋光太夫記念館

<http://suzuka-bunka.jp/kodayu>

ご利用案内

大黒屋光太夫記念館では、特別展・企画展を通して、さまざまな視点から光太夫について紹介しています。

☆開館時間 10:00～16:00

☆休館日 月曜日(休日の場合は開館)・火曜日・第3水曜日
年末年始(12月28日～1月4日)

☆入館料 無料

☆アクセス 近鉄名古屋線急行利用 伊勢若松駅下車 徒歩15分
近鉄名古屋線特急利用 白子駅下車 タクシー利用10分

*東京・名古屋方面から:名古屋駅で近鉄名古屋線に乗り換えてください
名古屋駅→近鉄特急(40分)→白子駅→タクシー
名古屋駅→近鉄急行(46分)→伊勢若松駅
→徒歩

*大阪方面から:近鉄特急が便利です

難波駅→近鉄特急(1時間45分)→白子駅→タクシー
難波駅→近鉄特急(1時間45分)→白子駅
→近鉄急行(3分)→伊勢若松駅→徒歩

☆自家用車のナビで「大黒屋光太夫記念館」が検索されない場合、
「若松小学校」を目的地にされると便利です。若松小学校の正門前が記念館です。

